
[成果情報名] イオンビーム照射の葉片培養物に由来するキクの新系統「JCH1029」

[要約] キク「JCH1029」は、「神馬」の葉片培養物にイオンビームを照射して、突然変異を誘発した後に再生させた系統である。二度切り栽培時の萌芽性が「神馬」より優れ、切花品質が良い。

[キーワード] キク、イオンビーム、突然変異、育種

[担当部署] 花き部・花き育種チーム

バイオテクノロジー部・遺伝子操作チーム

[連絡先] 092-922-4958 (花き部) 092-924-2970 (バイオテクノロジー部)

[対象作目] 花き・花木 [専門項目] 育種 [成果分類] 品種育成

[背景・ねらい]

白系輪ギクの主力品種である「神馬」は、低温期を経過する作型での開花遅延や二度切り栽培時に株の不萌芽という問題を抱えている。そこで、「神馬」の葉片培養物にイオンビームを照射して突然変異を誘発した後、再生した植物体の中から、切花品質が優れ、二度切り栽培時に萌芽性の優れるキクを育成する。

(要望機関名 : 生産流通課、JA全農ふくれん(H9))

[成果の内容・特徴]

- 1 平成13年に「神馬」の葉片培養物にイオンビーム (${}^4\text{He}^{2+}$ 50MeV) を照射し、平成14年に1次選抜、平成15年に2次選抜を実施して、優良系統「JCH1029」を選抜した(図1)。
- 2 「JCH1029」は「神馬」より電照抑制12月出し栽培において上位葉のボリュームが優れる(図2)。
- 3 「JCH1029」は、「神馬」より12月開花後の切り下株の萌芽性が良い(表1)。
- 4 「JCH1029」は、「神馬」より4月出し二度切り栽培における品質(切花重量)の揃いが良い(図3)。

[成果の活用面・留意点]

- 1 電照ギク産地において、在来系「神馬」に代わる系統として活用できる。
- 2 在来系「神馬」と側枝数の差は無い。

[具体的データ]



図1 「JCH1029」の花容・草姿

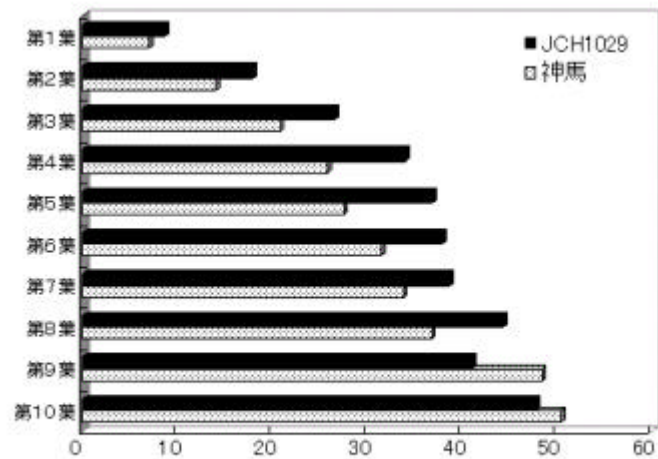


図2 上位10葉の大きさ(葉身長×葉幅)

注)1. 電照抑制12月出し栽培

表1 12月開花後の切り下株の萌芽株率

系統名	萌芽株率(%)
JCH1029	80
神馬	61

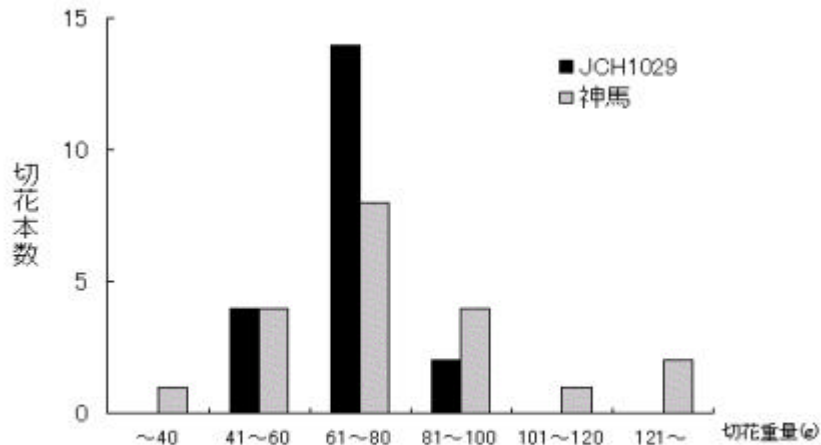


図3 4月出し二度切り栽培における切花重量の度数分布

注)1. 栽植密度 133本/m²

[その他]

研究課題名：イオンビーム照射による花きの新品種の育成

予算区分：県特（福岡オリジナルフラワー開発事業）

研究期間：平成16年度（平成12～16年）

研究担当者：巢山拓郎、谷川孝弘、松野孝敏、國武利浩、坂井康弘、黒柳直彦、池上秀利、平島敬太

